

息をあわせて
息をあわせて
息をあわせて



●特集 ②-④

より安全に、より快適に！
動き出した 路線整備

- 5-10 タウンピックアップ
- 11 健康生活していますか？
- 12-13 まちな家写真館
- 14 みんなで5・7・5
- 15 市長日記・省エネ長者作戦
- 16 びょういんだより
- 17 教育委員会 information
- 18 国保年金あらかると
- 19-21 情報おしらせ版
- 22 そうだ図書館に行こう！
- 23 窓口・納税
- 24 歴史散歩

【「2007高島市音楽会」で】

歴史散歩

No.36

継体天皇を支えた古代豪族
三尾氏族の石室発見！



「日本書紀」によると継体天皇は「近江国高島郡三尾別業」で生まれたとされ、市内には関連する史跡や地名・神社等が多く残っています。なかでも安曇川町田中に所在する田中古墳群には、継体天皇の父「彦主人王」の墓とされる宮内庁の陵墓参考地が所在し、継体天皇擁立に尽力した三尾氏との関連が考えられる遺跡です。



置したとされる空間を構築してしました。この空間の床面や壁面は、赤色顔料（ベンガラ）が塗られ、赤い石の部屋に遺骸を埋葬していたことがわかりました。

石室内からは、武器・馬具・須恵器・ガラス玉・耳環など多くの副葬品が出土しました。特に金銅で装飾された馬具などが多く出土したことから、この古墳に埋葬された人物はかなりの有力者であったことが推察されます。

36号墳で確認された横穴式石室は、遺骸を安置する空間を特別に設けるなど、全国的にも類例が確認されない特異な構造でした。古墳が造られた時期は、出土土器から6世紀後半とされ、この時期の首長墓と考えられます。周囲には、継体天皇関連の伝承や

史跡が多く存在し、その立地からも高島平野南部一帯を治めた三尾氏族の首長墓と推定され、彦主人・継体父子を支えた三尾氏が継体朝(507～531年)以後もこの地において勢力を掌握していたことを示す発掘となりました。今回の調査結果は、謎の多い継体天皇に関する研究を進める上でも、当該地の地域史を考える上で、継体天皇即位1500年という記念の年に意義深い調査成果となりました。(文化財課)



心強いパートナーが誕生 (今津町椋川で)

編集後記



▼今津町椋川で行われたイベントで、山の手入れに励む家族を見つけた。小さな子どももノコギリを片手に懸命に木を切っています。林業体験かと思いきや、暖房用の燃料確保だとか。山に歓声がこだましています。森を守る心強いパートナーの誕生です。▼市内各小学校の代表が、音楽発表を通じて交流を深めました。今月の表紙は、11月14日(水)と15日(木)にガリバーホールで開催された「2007高島市音楽会」の様子をご紹介します。静まり返った会場内。舞台上立つ子どもたちはやや緊張した様子。振り上げられた指揮者の手に、子どもたちの視線が集中します。「出だしに気を付けて」「息をあわせて」そんな心のささやきが聞こえてきそうです。子どもたちの歌声は、何かと忙しい日々、心の余裕をなくしてしまっていることを思い出させてくれます。深呼吸して、耳を澄ませてみると、大切な人のささやきが聞こえるかもしれません。(広報担当)